

第4章：東京医科大学八王子医療センター41年の歩み

東京都西部に位置する明治の森 高尾国定公園の緑豊かな環境の八王子市において、本学3番目の附属病院として、令和2（2020）年に開院40周年を迎えた東京医科大学八王子医療センター（以下、当センター）の歩みをご紹介します。

■八王子市の誘致により開設

当センターは、昭和55（1980）年4月1日、八王子市の誘致により、自治体、地元医師会、本学が共同して循環器系疾患を中心とした高度医療と第三次救命救急を行う医療機関として開設されました。

そのきっかけは、昭和50（1975）年代に入り、本学では手狭な大学病院での医学生の臨床実習に頭を痛め、卒業教育の充実を図るためにも次なる附属病院を望んでいたところ、当時人口36万人を擁する八王子市が、市民病院や高度医療技術を有する大病院がないため大学病院を誘致する方針を打ち出しました。これに本学を含む4大学が名乗りをあげ、検討が重ねられた結果、本学が提携大学として選定されました。

明治の森 高尾国定公園に近接した丘陵地を削って造成した1万坪の敷地が八王子市から提供され、220床の病院が建設され、八王子市から委託された伝染病棟および検診センターの管理運営を担いました。

初代のセンター長に北海道大学第二外科教授の杉江三郎氏（元北海道大学病院長、本学心臓血管外科学分野創設者）を迎え、医師12名（センター長を含む）、看護師55名でスタートしました。



昭和55（1980）年 開設当時の東京医科大学八王子医療センター

■総合病院となり南多摩医療圏の基幹病院に

当センターは、八王子市とその近隣に大学病院がなかったこともあり、患者数が年々増加し、センターの内外から診療科の増設と病床の増床が強く望まれました。これを受けて、本学、八王子市、八王子市医師会の三者で協議し、昭和63（1988）年12月から2年余の歳月をかけて、教育研究棟、B館（外来・病棟）、C館（中央診療部門等）等の増改築工事を行い、平成3（1991）年4月に21診療科、508床を有する総合病院になりました。平成14（2002）年4月に屋上に大型ヘリコプターの離発着が可能なヘリポートを設置したD館（病棟）が完成して総病床数610床（一般病床602床、感染症病床8床）となり、三次救急医療施設としての機能が向上しました。



平成14（2002）年 D館病棟



患者搬送でD館屋上に着陸した救急ヘリ

現在、標榜診療科は 36 科となり、三次救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、感染症指定医療機関、地域医療支援病院、日本臓器移植ネットワーク HLA 検査施設などの指定を受け、先進医療と地域医療の推進を図り、八王子市を含む南多摩医療圏（令和元年度人口 142 万人）の基幹病院として、救急医療、がん医療、移植医療に重点を置いて地域の医療に貢献しています。

■社会連携と医療連携が融合して社会に貢献

また、地域災害拠点中核病院として、毎年、八王子市、消防、警察、医師会、薬剤師会、近隣大学、自治会など地域ぐるみの総合防災訓練を実施しています。社会連携の面では、連携病院とのシャトルバス共同運行、本学と包括連携協定を締結している八王子市の主催行事への医療救護協力、平成 29（2017）年 拓殖大学、平成 30（2018）年 法政大学との災害時包括連携協定締結、サッカー J リーグ東京ヴェルディと連携した臓器移植の普及推進活動、東京 DMAT 隊（災害派遣医療チーム）による災害被災地での医療救護支援など、社会と連携した活動を展開し、医療連携と融合して社会に貢献できるよう取り組んでいます。



連携病院とシャトルバス共同運行

法政大学と災害時包括
連携協定締結

東京ヴェルディとの臓器移植普及
キャンペーン（味の素スタジアム）

東京 DMAT 隊員と医療支援車

■明日の医師を育成

当センターは医科大学として医師の育成の社会的責務を担っており、平成 19（2007）年 12 月 1 日、NPO 法人卒業臨床研修評価機構から、全国の大学病院の中で臨床研修病院として第 1 号の認定を受けました。平成 27（2015）年 2 月には、会議室や多目的ホール、院内保育所を併設した研修医宿舎「緑風館」が新築され、医療者にとって働きやすく、学生や研修医にとっても学びやすい環境の病院になっています。現在、職員数 1,420 名（令和 3 年 4 月 1 日現在）で運営しています。



平成 27（2015）年 研修医宿舎
「緑風館」



令和 3（2021）年 現在（高尾山を望む）

